

観光立国の実現は地方(地域)から

訪日市場の拡大に商機をつかめ

新年特別鼎談

新しい年を迎えた。市場環境は待たずに変化しているが、外国人旅行者数の増加、地域活性化に向けた観光への期待の高まりなど、観光立国の推進には追い風が吹いている。年始にあたり観光の動向について、観光庁の久保成人長官、日本観光振興協会の山口範雄会長(味の素会長)、日本政府観光局(JNTO)の松山良一理事長の3氏に語り合ってもらった。(編集長・内井高弘)

まず始めに2014年を振り返ってほしい。観光分野のトピックスは、久保 二つ目は、観光立国推進関係会議が6月に観光立国実現に向けたアクション・プログラム2014を策定したことを挙げたい。前年に策定されたアクション・プログラムを改定したもので、ビザ(査証)の緩和をはじめ各種の観光施策が盛り込まれている。外国人旅行者が増えたという強い思いがあり、関係会議では総理自らが2020年を目標とする外国人旅行者2千万人を目標とするという発言があった。プログラムは政府の行動計画で、これに沿って各種施策が実行されている。観光の推進としては強い。

地域経済にインバウンドが浸透した。観光業界でも国内観光に力を入れたいという声が出てきた。外国人旅行者が増えているが、国内観光を推進しているのがインバウンドであって、旅行者が日本各地を訪れるという意味では同じで区分はなくなりつつある。それ以外にインバウンドという分野が、特別な分野ではなくてきたと感ずる。

松山 訪日外国人旅行者数は、13年に初めて1千万人に到達したわけだが、それは官民を問わず観光業界が心を一つにして努力をした成果だった。14年を迎えた時点では、再び1千万人を割り込むレベルに逆戻りすることのないように地道めしなればならぬという意識もあったが、政府、地方、産業界の一体感も高く、シニア層や女性層の需要が底堅かった。旅行需要を喚起するような話題も多かった。前年の富士山に続き、富岡製糸場が世界文化遺産に、和食に続き、和紙がユネスコ無形文化遺産に登録された。これまでも自国に誇りを持っていた地域資源が登録を機に大きな注目を集めるようになった。あべのハルカスやユニバーサル・スタジオ・ジャパンの新施設の開設も話題になった。東北では、三陸鉄道の全面復旧が明るい話題で震災復興を前進させた。運輸の分野についても、LCCの国内線就航、クルーズ旅行の増加のほか、北陸新幹線が開業を前に話題になっている。

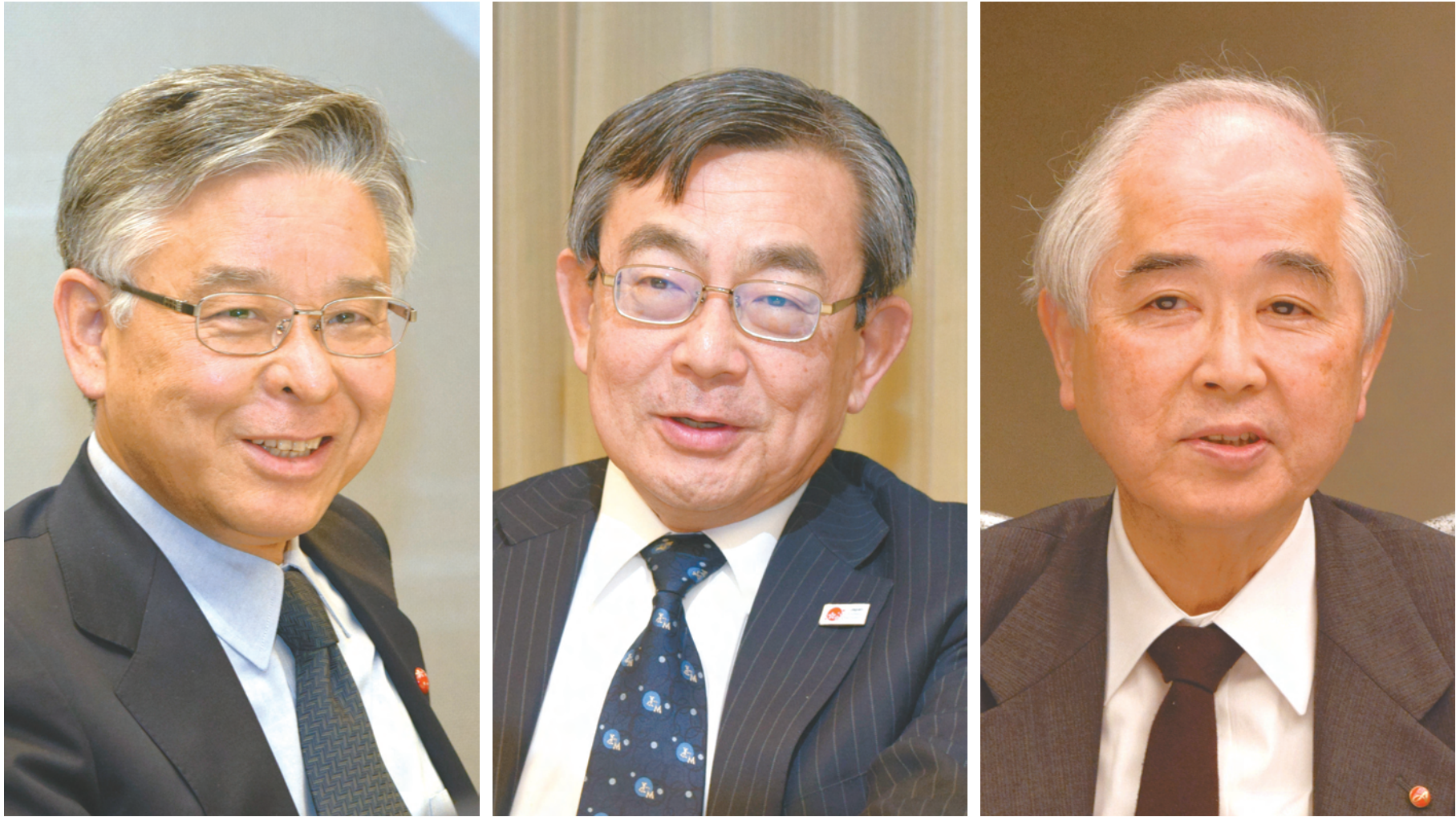
久保 国内の動きでは、新しい観光地域づくりも実を結びつつある。観光圏整備法に基づき観光圏に関しては、地元関係者が熱心に、地道に取り組んでいる。観光による地域活性化の重要性が増す中で意欲を新たにしている。周遊・滞在型のエリア観光を飛躍させる基盤として、観光庁として後押ししている。

松山 韓国に関しては、JNTOの主催で観光交流拡大に向けたシンポジウムを12月に東京で開いた。韓国観光公社がソウルで開いた同様のシンポジウムを受けて開催したのだが、地方間の交流を促進するなど、15年の日韓観光交流の活性化に向けて観光交流の活性化に取り組むことを官民の関係者で確認した。

山口 台湾からの訪日も好調だ。双方の関係者が参加して毎年開催されている日台観光サミットは、14年は台湾の屏東で開催された。こうした交流の積み重ねが大きい。中韓台のほか、ASEAN(東南アジア諸国連合)の国々からの訪日も大変な伸びだ。これは政府の施策が奏功した典型で、ビザ緩和の即効性が表れている。

山口 日本人の国内旅行はどうだったか。国内旅行も全体としては堅調だった。4月は消費税率の引き上げがあつて若干マイナスだったが、旅行意欲は高く、シニア層や女性層の需要が底堅かった。旅行需要を喚起するような話題も多かった。前年の富士山に続き、富岡製糸場が世界文化遺産に、和食に続き、和紙がユネスコ無形文化遺産に登録された。これまでも自国に誇りを持っていた地域資源が登録を機に大きな注目を集めるようになった。あべのハルカスやユニバーサル・スタジオ・ジャパンの新施設の開設も話題になった。東北では、三陸鉄道の全面復旧が明るい話題で震災復興を前進させた。運輸の分野についても、LCCの国内線就航、クルーズ旅行の増加のほか、北陸新幹線が開業を前に話題になっている。

久保 国内の動きでは、新しい観光地域づくりも実を結びつつある。観光圏整備法に基づき観光圏に関しては、地元関係者が熱心に、地道に取り組んでいる。観光による地域活性化の重要性が増す中で意欲を新たにしている。周遊・滞在型のエリア観光を飛躍させる基盤として、観光庁として後押ししている。



日本政府観光局(JNTO)理事長 松山良一氏

観光庁長官 久保成人氏

日本観光振興協会会長 山口範雄氏

インバウンド、日本経済に浸透 久保 山口 ツーリズムEXPOに大きな成果

潮目変わった中国市場に注目 松山

—日観振とJATA(日本観光振興協会)が手を結び、本旅行業協会が手を結び、二つの博覧会を統合して初開催したツーリズムEXPOが主催する訪日旅行商談会、ビジットジャパン・トラベルマーケットも同時に開催された。15年も同様の形態で開催される。非定期的で大きな成果を上げることができた。15年の国・地域がアジアを主眼とし、国内旅行、海外旅行、訪日旅行が三位一体となった旅行博覧会が実現した。

久保 海外バイヤーがいかなる目的で来日しているか、数回訪日して15万7千人が来日した。観光庁とJNTAが主催する訪日旅行商談会、ビジットジャパン・トラベルマーケットも同時に開催された。15年も同様の形態で開催される。非定期的で大きな成果を上げることができた。15年の国・地域がアジアを主眼とし、国内旅行、海外旅行、訪日旅行が三位一体となった旅行博覧会が実現した。

松山

—2015年の観光業界の展望は、

加する。そうした人たちは、人々を集める力がある。山口 初回として出展数も来場者数も満足できるものだったと思うが、課題についても話した。この指摘の通り、海外からの出展、参加を促すために営業活動の強化が必要だという意見が出た。もっと多様な意見を出す。この旅行博覧会の存在を内外に強力にPRしていきたい。改善を重ねていけば、出す。(4面に続く)

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

KNT-CTホールディングスは、旅をテーマとして、世界中に感動・笑顔・信頼の「物語」を創出していきます。本年も、笑顔あふれる社会の実現にチャレンジしていくKNT-CTホールディングスを、どうぞよろしくお願いたします。



KNT-CTホールディングス株式会社